

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0170504062 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 ノテ福祉会 | | |
| 事業所名 | グループホーム「ごきげん」福住(2階) | | |
| 所在地 | 札幌市豊平区福住2条9丁目1-32 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年10月30日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年2月18日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|--|
| 基本情報リンク先URL | |
|-------------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ | | |
| 所在地 | 江別市大麻新町14-9 ナルク江別内 | | |
| 訪問調査日 | 平成25年11月28日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--------------------------------------|
| 入居者の健康管理 穏やかな生活 ADLの維持 家族との顔の見える関係作り |
|--------------------------------------|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| 住宅街にある鉄筋コンクリート造り地下1階地上3階の建物で、1階は同母体法人の小規模多機能が入り、事業所は2階9名、3階9名の定員18名である。合同で「ごきげん福住祭り」を開催し、行事等を通じて利用者同士の交流があり、馴染みの関係を作ることができる。内部階段、エレベーター、外部避難階段と3系統の移動手段があり緊急時にも対応している。母体法人は多くの事業を運営している福祉法人であり、医療関連の連携もスムーズに行われている。地域とのかかわり合いは、新年会、盆踊りなどの町内会行事への参加、事業所行事への参加呼びかけ、又、毎年近隣の中学校と強い連携を持ち、生徒の体験学習を通して理解と交流が行われており、入居者も心待ちにしている姿は多くの関係者の励みとなっている。管理者と職員、スタッフが一丸となり薬、下剤に頼ることなく入居者の持っている基礎能力、基礎体力を引き出し、自然で穏やかな生活ができるように努めている。 |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|--|--|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | | 外部評価 | | |
|-------------------|------|--|--|---|--|------|--|--|
| | | | 実施状況 | | | 実施状況 | | |
| I.理念に基づく運営 | | | | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 現在理念について全職員で見直しているが、今後も常に理念を念頭において業務に取り組む。 | 職員は「過介助をすることなく、利用者が持っている能力を引き出す」を独自の理念に加えようと話し合い、利用者がそれぞれ自信を持ってその人らしい生活を送れるように支援している。たとえば安易に下剤に頼らない食事や体操による便秘予防である。 | | | | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 年に2度の祭りや、春の花壇起こし、花植えに参加している。散歩や買い物、床屋、出前等を持ち地域とのつながりを広めている。また近隣中学校の職業体験を受け入れている。 | 新年会、盆踊りなどで町内会から協力の依頼があり、行事ごとに積極的に参加している。又、中学生の体験学習では認知症の説明、会話、生徒のマジックなどを通して交流を広めており、入居者の大きな楽しみとなっている。 | | | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議で議題としてあがっているが、まだ実行には至っていない。今後地域包括支援センターと連携をとり実行したい。 | | | | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 地域包括のソーシャルワーカーや町内会長に参加して頂き、入居者家族の悩み(還付金詐欺被害)等も議題として上がってる。また町内からのお願い事も聞き入れる機会となっている。毎回2、3組の家族の参加している。 | 町内会長・地域包括支援センター・家族などが参加して、2ヶ月に1回開催し、事業所の行事・ヒヤリハットなどの報告をしている。また、事業所の行事や避難訓練に近隣の人が参加してもらえるように町内会長を通じて呼びかけている。 | | | | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市が開催する研修会へ参加している。また入居者へのサービスの向上にむけて法的な事の相談、助言をもらっている。 | 年4回の札幌市管理者研修会に必ず出席しており、その成果を、朝礼・カンファレンス・全法人の研修会などで報告、発表している。 | | | | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 利用者一人一人の状態を把握し、身体拘束をしないケアを職員同士意見交換を行い実践している。 | 各居室は内部から利用者が自分で施錠できるようになっている。又階段からの転落の危険予防のためサムターン錠で扉の開閉をコントロールしている。身体拘束の弊害を理解し、帰宅願望者は押しとどめずに、職員が見守り寄り添いながら、会話によって安心してもらい、気持ちを落ち着かせるように努めている。 | | | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 法人内外の研修会への参加、日常業務での職員の入居者に対する言動に常に注意を払っている。何が虐待かを意識して全職員で話し合っている。 | | | | | |

グループホーム「ごきげん」福住(2階)

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修会へ参加し基本的知識を得るとともにニーズのある入居者家族への相談、助言をおこなっている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 見学時に生活の様子や介護方針をお伝えし、ご理解を頂いている。契約時には契約書、重要事項説明書を入居者や家族と読み合わせ署名を頂いている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時に生活の様子を伝えしている。その他要望等あれば都度職員に気軽に伝えてもらうように日々説明している。 | 月1回の「ごきげん通信」や一言コメントによる近況報告で家族の関心と要望を引き出している。利用者からの意見は面会時に直接職員や管理者に話すことが多く、要望が出れば、迅速に反映できるように努めている。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月のホーム全体会議にて法人全体の動向を報告し、情報を共有しながら必要に応じて意見を求める場面もある。また、月1回の各フロア会議も設けられ、意見や提案を発表する機会がある。 | ホームの全体会議、ユニット会議で意見や要望を発表する機会があり、その中で定例報告のほか、職員同士の情報の共有、確認、意見、要望を交換している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年に2回の個人面談を実施。その際に業務管理シートを各自作成しており、個々の業務や努力は褒め称えるようにしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内外の研修への参加と法人内での採用時研修や幹部候補を集めての研修等スキルアップの機会を多くもちモチベーションの向上につなげている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 区のグループホーム協会の会議やケアプランの勉強会等に参加し交流の場をもっている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に本人と会い、お話を聞く機会を設けている。本人の不安な事、困っている事をよく聞き、入居してからなるべく寄り添う時間を多く設けて不安を最小限にしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の必要としているニーズや思いについてお聞きし、入居してから本人にとって安心できる生活の場を提供している。入居中も随時、要望などお聞きしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談内容に応じてグループホーム以外のサービスについても説明し紹介している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者の目線に合わせて、寄り添うケアを行う事により、信頼関係を築きケアに生かされている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居者の細かな変化を見逃さず家族へ報告し、状況や思いを共有し入居者と家族との架け橋となる関係を築いている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居者が家族と共に町内会の行事に参加したり、自宅への外出支援、病院への通院支援等、本人の意向に添う様支援している。 | 馴染みの友人が来ることもあり、お茶出しや面会場所の提供をして支援している。事業所を訪問する乳飲料販売員から定期的に購入する利用者がおり、馴染みの関係を築きながら会話を楽しみにしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | フロアで過ごす時間を多くする事で、意思疎通が難しい入居者同士であっても目を合わせ、笑顔が多く見られている。その中に職員も関わることでよりよい関係が作られている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 終末期で入院退去した入居者への面会や家族との関係も継続し相談をうけている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 意向の把握が困難な方には、家族から意見を頂きながら本人の意向に添える様配慮している。 | 「ごきげん通信」で家族に月々の活動を伝えて、面会時にその写真を見せながら説明を行い、会話の中から家族の思いや意見を聞き入れて要望に応えるようにしている。買い物などの要望に、職員は近所のコンビニと一緒に行って応えている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族や本人から聴取し生活の中へ取り入れて個性を大切にしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | できる事、できない事の見極めを行い、できる事の継続を図る。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族の意向をケアプランに取り入れて、モニタリングを職員全体でしっかりと行う。そのため職員からの意見が反映されプランになっている | ケアマネジャーが介護プランを作成し、ケアマネジャー、職員、管理者などで検討し、1回目原案・会議・2回目原案・利用者への説明と同意という流れで作成する。その後モニタリングの中で意見・要望などがあれば、直ちに家族などの同意を得て見直しを行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 職員間の情報交換や、気づきを多く挙げてもらいケアプランの見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 希望時には外食にも職員が同行し、共に楽しい時間を過ごしている。自宅への外出希望の方への送迎を行う事で、家族との一家団欒の機会が持てる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 歯科、内科、皮膚科の往診、理美容サービス、訪問看護、リハビリ、近隣商店、病院等利用し、入居者様能力やニーズに合わせて地域との関係を構築し、支援へ結びつけている。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族が希望する主治医がおり定期的に継続受診の対応を行っている。基本的には家族付き添いであるが、ほとんどの入居者は職員が通院介助を支援している。 | 受診同行することにより その都度利用者への対応を行っている。受診内容を職員同士の協議などを通じ 利用者へのよりよい介助に役立て職員のスキルアップにつながっている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | | 外部評価 | | | | | |
|----------------------------------|------|--|---|--|--|---|--|--|---|--|--|
| | | | 実施状況 | | | 実施状況 | | | 次のステップに向けて期待したい内容 | | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週2回の訪問看護師とは医療連携記録に健康状態を記入し、申し送りをしている。緊急時には随時連絡し指示を仰いでいる。 | | | | | | | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 定期の通院時で病院との関係を築いている。また、入院時は病院のSWと連絡を密にとり合っている。 | | | | | | | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に終末期までの方針を家族、御本人様へ説明し理解、了承を得ている。かかりつけの病院、法人内事業所と連携し、本人、家族の望まれる方向性にむけた支援に努めている。 | | | 契約時に指針を説明して同意を得ている。重度化の対応については近隣病院との連携は構築されている。看取りについては、医療行為が必要になる前の早い段階で、法人内事業所や近隣病院と連携をとって、家族の相談に応じ、家族の意向に沿えるように支援している。 | | | | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 5月には入居者がドクターヘリにて搬送される事があったので、その後の振り返りとして緊急時対応の確認をしている | | | | | | | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 運営推進会議では災害発生時について具体的な話し合いには至っていないので、今後の課題である。年2回の避難訓練の内容を充実して行きたい。 | | | 年2回消防署立会いで避難訓練を行っている。一時避難場所は出火場所に応じて2ヶ所を想定し、歩行ルートの設定もしている。又非常階段付近の滑り止めの対策をして、安全面にも配慮している。 | | | 避難訓練時の消防署の講評を参考に、運営推進会議の力を借りながら、想定される火災や地震等の各災害別、発生状況別に職員はどう動くのか、利用者をどう避難させるのかを具体的に定め、職員や地域住民の共通理解にすることを期待する。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者の尊厳を守り、声かけや言葉使いに十分に配慮した対応を取っている。 | | | 高齢者を敬い、入居者から学ぶという姿勢で利用者に接し、尊厳を損ねない言葉使いに特に注意をしている。就寝時の居室ドアの施錠、開・閉など入居者の希望に対応している。 | | | | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 職員側の視線ではなく、入居者一人一人の思いに添ったケアを心がけている。 | | | | | | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 常にその人らしさを尊重し、一人一人の入居者に合わせた支援を行っている。 | | | | | | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自宅で生活していた時と変わらないようにおしゃれを楽しめるよう、入居者と一緒に買物に出かけ、本人に選んで購入している。 | | | | | | | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居と一緒に食事の準備をし、味見や盛り付けをして頂き、食事を楽しめる様心がけている。準備や片付けの際に会話しコミュニケーションを取りながら楽しく行っている。 | 食事の準備などができる範囲で一緒に行っている。配食サービスを利用しているが、月4回ほど希望を聞いて職員が作っている。誕生日には出前サービスの握り寿司でお祝いをして好評を得ている。好みで自分用の副菜を用意している利用者がいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 好みの副菜の提供により摂取量が増えている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔内に汚れが溜まりやすい方には口腔ティッシュを購入して頂き、清潔を保ち誤嚥に繋がらないようにケアしている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄表やケース記録を元に、声かけ誘導を行い、オムツ使用の軽減にむけて支援している。また、全介助の方も二人介助によるトイレでの排泄を出来る限り促すようにしている。声かけの反応や、仕草を見逃さないようその人に合った排泄パターンを周知し、誘導している。 | トイレ排泄が利用者の尊厳と自信保持のために不可欠であると職員皆が理解して、尿意を表明できない場合も、しぐさや排泄チェック表を使用した声掛けで排泄の自立を支援している。全介助でも2人介助によるトイレ排泄によって、オムツの使用をできるだけ控えるように努めており、オムツから布パンツに改善した利用者がいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | なるべく離床時間を増やし、薬に頼らない自然排便が理想と考えている。ヤクルト、ヨーグルトの購入もしている。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 大きな時間帯の変更は困難。入浴日数を把握し、本人へ確認し入浴している。また、同姓介助を希望される方も要望に応じている。全介助の方も福祉用具利用や二人介助により出来るだけ浴槽に入っていたり。 | 利用者に了解してもらって入浴プランを立てるが、時には面倒がったり、嫌がったりする事もある。なぜ嫌がるか原因を探り、そこから入浴に繋げている。また会話を通じて納得・了解してもらい週1～2回入浴が楽しくできるように努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中でも疲労時や習慣で臥床し休まれたりと、休息の場を設けている。また、良眠できるよう居室の環境を整備している。(換気、室温調整等) | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の管理は管理者が中心に行っている。薬の情報書は職員と共用し、内容を理解している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 本人、家族からの聞き取りを中心に個別の生きがい、精神的な活性化を大事にし、家族と協力しながら支援している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|--|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 希望により買物、外食など個別での対応をしている。季節に応じた花見、紅葉狩り、雪祭り見学なども少人数ながらも楽しめるように工夫している。2階フロア一全員での保養所外出を行い会食、入浴も楽しんで頂けた。 | 利用者が最も楽しみにしている帰宅について力を入れており、送迎車を使用して外出支援を行っている。天気の良い日は散歩の希望が多いので出来るだけ希望に添えるようにしている。ショッピングセンターに車で出かけることがある。 | 保養所への外出、会食、入浴のフロア全体での同行動は利用者、職員のリフレッシュに繋がり事業所全員に良い影響を与えているようである。利用者には好評であり現在は移動のための交通手段がないので施設または当事業所で工夫して毎年実施できるように期待したい。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入所者と一緒に買い物に行ったり、何か欲しい物などをお聞きしたりして個別に対応している。また、入居者の能力に応じてご自分で管理している。 | | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 遠方の家族とのやりとりは手紙で行い、職員による代筆等で本人の気持ちを伝えています。電話は、要望に応じて対応しています。 | | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者の居住のスペースである事をしっかり受け止め、職員の職場である意識をすてて、職員間の言動に留意し、不快感を感じさせないように配慮している。 | 階段の踊り場には職員の名前入り写真が張っており面会者との円滑な会話に役立っている。日当たりが良く充分な広い室内には椅子、テーブル、ソファが置かれ 壁には入居者が必ず全員映っている「ごきげん通信」が貼ってある。素朴だが穏やかな空間であり、大きな窓から見える藻岩山、羊が丘展望台から季節感を感じることが出来る。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 一人掛け用のソファや座椅子等を購入し、好みに応じている。入居者同士の関係や嗜好、毎日の過ごし方等を考慮した家具の配置を行い、過ごしやすく、くつろげる場を提供している。 | | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族や昔の旅の思い出等の写真を居室に飾っている。入居時や入居中に本人が使い慣れた物や愛着のあるものに囲まれた居住環境に心掛けている。 | 居室には電動ベットを始め様々なベッドが置かれ個々の体調に合わせている。居室、トイレの換気には気を付けており、1時間に1回程度窓を開け外部の空気を取りいれている。夜中にトイレに起きだす行動をとる利用者には、拘束とならない範囲で鈴やセンサー等を使って夜勤職員が認知出来るようになっている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 壁に伝って歩けるよう環境に配慮している。なるべく床に物を置かず、イスの位置にも配慮し安全に歩行できる環境を作っている。トイレ、浴室、リビング等、目が届きやすく安全に配慮した環境になっている。 | | | |